



「見たり、聞いたり、探ったり」No.206

通算 No.358

青 木 行 雄

東京都港区「愛宕山」と「愛宕神社」

港区に愛宕山があって、NHKの放送センターや愛宕神社等があることは知っている方も多いと思う。しかし実際に行って神社におまいりしたり、NHKの今は放送博物館になっていて、見学された人は案外少ないかも知れない。

現在は近くに高層ビルが立ち並び、高い山とは感じないが、一昔前までの近隣では大変目立つ山であったと思われる。

鉄道唱歌にも歌われている愛宕山は都心に現存する名山として著名であった。今も名残はいろいろあって楽しい場所でもある。

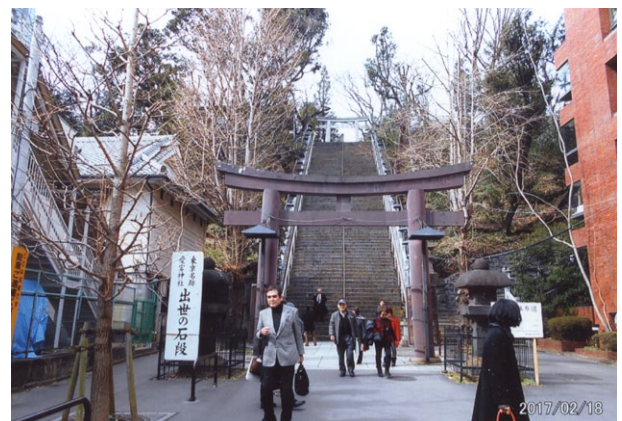
「愛宕の山に入り残る月を旅路の友として」高さは海拔26メートルと言ひ、広さは6,000坪あると書かれている。境内にはかなりの樹木が生い茂り、NHK放送博物館と愛宕神社が鎮座しており、神社の正面には86段の男坂があってなかなか勇壮な石段であった。

春は桜、秋は観月四季折々の風情に富んだ山姿は風光明媚な憩いの場所として親しまれているとパンフレットに書かれていた。

話はさかのぼるが、徳川家康公が江戸に幕府を設けた1603年(慶長8)幕命により奉行石川六郎左衛門内尉仮殿を建立し幕府の尊崇あつく、1610年(慶長15)、庚戌本社を始め、末社仁王門、坂下総門、別当所等、将軍家の寄進により建立された。1617年(元和3)、2代将軍、秀忠公、武蔵国豊島郡王子村に社領二百石を寄進され、祭礼等にはその都度下附金の拝領を得ていた。その後、江戸大火災により社殿その他焼失したが、1877年(明治10)9月に本殿、幣殿拝殿、社務所の再建がなかったと言う。しかし1923年(大正12)9月1日関東大震災で全壊する。そして、1945年(昭和20)5月24日、大空襲により太郎坊神社を残し社殿一切灰燼に帰した。1958年(昭和33)9月氏子中



※愛宕山のトンネルで左側の塔がNHK放送博物館と愛宕神社へ行くエレベーター。海拔26メートルの山。



※正面の石段で86段あってかなり急坂である。右側に別に登り道もあって、エレベーターもある。

の寄付により御本殿、幣殿、拝殿等を再建され現在に至っていると言う。

現在でも86段ある「男坂」の急な石段は「出世の石段」と呼ばれている。これは江戸時代の1634年(寛永11)2月25日、徳川秀忠の3回忌として増上寺参拝の帰り、徳川家光が山上にある梅が咲いているのを見て、「梅の枝を馬で取って来る者はいないか」と言ったところ、讃岐丸亀藩の家臣(曲垣平九郎)が見事馬で石段を駆け上がって枝を取って来ることに成功し、その者は馬術の名人として全国にその名を轟かせたという逸話から「出世の石段」として今でも伝えられている。

以降、出世の石段を馬で登った成功例は今までに3例伝わっているのを記してみる。

1例目は仙台藩で馬術指南役を務め、廃藩後曲馬師をしていた石川清馬で、師の四戸三平が挑み、果たせなかった出世の石段登頂を1882年(明治15)に自らが成功させ、これにより石川家は徳川慶喜より葵の紋の使用を許されたと言う。

2例目は、参謀本部馬丁の岩木利夫で、1925年(大正14)11月8日、愛馬平形の引退記念として挑戦し、観衆が見守る中、成功させた。上りは1分ほどで駆け上がったが、下りは45分を要したという。この模様は山頂の東京放送局によって中継され(日本初の生中継とされる)昭和天皇の耳にも入り、結局、平形は陸軍騎兵学校の将校乗馬として使われ続けることとなったという。

3例目は馬術のスタントマン、渡辺隆馬である。1982年(昭和57)日本テレビの特別番組「史実に挑戦」において、安全綱や命綱、保護帽などの安全策を施した上で32秒で登頂したと記録されている。

※ この愛宕山の26メートルが都内で一番高い山と神社の看板にも書かれているが、「自然地形で、尚且つ山と呼ばれるものの中では最高」。23区西部の大半は標高30メートルを超える台地があり、最高地点は練馬区南西端は約58メートルもあるらしい。また人造の“山”の最高峰は新宿区の箱根山が45メートルあるという。このように東京は低い広大な平野なのである。



※正面の石段。昔、この石段を馬で駆け上がったと言われる男坂。



※石段を登ると正面に立派な鳥居があってこの奥に正殿がある。この中で正式参拝が行われる。



※手水の手洗所で、清めの水所。

「愛宕神社」について

御祭神

ほむすびのみこと
火産靈命 (火の神)

みずほのめのみこと
罔象女命 (水の神)

おおやまずみのみこと
大山祇命 (山の神)

やまとたけるのみこと
日本武尊 (武徳の神)

将軍地蔵尊 (将軍地蔵菩薩)

普賢大菩薩 (辰年・巳年生れの守り本尊)

俗 謡

伊勢へ七度 熊野へ三度 芝の愛宕へ月まいり

近隣にある会社の友人の紹介で、縁あってこの愛宕神社に正式参拝がなかった。

正面の86段ある男坂を一気に登り、春は桜、初夏は新緑、秋は観月、四季折々の風情に富んだこの愛宕山、都心であるがなかなかの場所である。

平成29年3月12日記



※本殿の中の神殿、ちょっと変わった派手な神殿であり、女性の神官がお祓いをしてくれた。



※愛宕神社の庭園でなかなか情緒があって、舟まで浮かべた池がある。左側に舟が見える。



※霞ヶ関ビルの35階から、愛宕山を見た風景である。ビル群の谷間に森があって中央に見える屋根が愛宕神社である。